TOHOKU UNIVERSITY
IRIDeS
東北大学災害科学国際研究所

令和 7 年度大規模地震時医療活動訓練を視察・参加しました（2025/9/6）

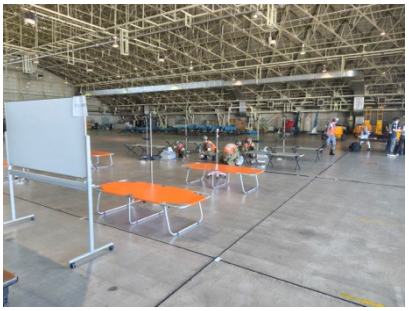
テーマ：大規模地震時医療活動訓練、DMAT、SCU、医療搬送拠点
会　場：航空自衛隊松島基地（宮城県東松島市）

2025 年９月６日（土）、令和７年度大規模地震時医療活動訓練が実施されました。この訓練は年に一度、多くの関係機関（内閣官房、内閣府、警察庁、消防庁、厚生労働省（DMAT 事務局含む）、国土交通省、海上保安庁、防衛省、防災科学技術研究所、宇宙航空研究開発機構、日本赤十字社、東日本高速道路株式会社ほか）が参加し、大規模災害時に迅速かつ円滑に医療活動を展開できるようにするための訓練です。今年度は、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震によって北海道、青森県、岩手県、宮城県（以下、被災４道県）に甚大な被害が発生したとの被害想定のもと、前記関係機関のほか、被災４道県の 73 病院、被災４道県を除く全国の DMAT359 チーム、386 名の訓練コントローラー・指定プレーヤーが訓練に参加しました。

マス・エリック准教授、ベスコボ・ルベン助教（災害ジオインフォマティクス研究分野）、佐々木宏之准教授（災害医療国際協力学分野）は、航空自衛隊松島基地に設置された SCU（Staging Care Unit, 医療搬送拠点）を視察し、また傷病者役として訓練に参加しました。ベスコボ助教は、宮城県広域防災拠点構想に関する研究を進めており、同行した県都市環境課広域防災拠点整備班メンバーとともに、SCU について理解を深めることが視察の大きな目的の一つでした。

視察中、訓練運営への協力かつ傷病者の病状・感情を理解する目的で、マス准教授らも傷病者役を務めました。扇風機があるとはいえ残暑厳しい最中での SCU 傷病者体験に、マス准教授は、人工透析患者の体調悪化の懸念やどこに搬送されるか分からない不安、患者情報管理の改善点、SCU 滞在時間など、今後のシミュレーション研究に資する幅広い情報を傷病者目線から収集することができました。佐々木准教授は、部署の異なる県職員同士や研究者、自衛官らを幅広く繋げ、平時の県政推進に資する宮城県災害医療コーディネーターとしての役割を果たしました。

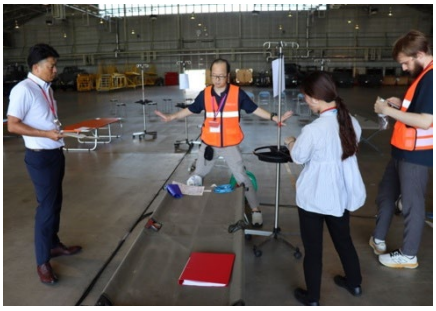
チームビルディングで業務を分担する DMAT 隊員ら


SCU 赤エリア。８床展開。ベッドを設営する自衛隊員

簡易ベッドと心電図モニター、点滴棒などが設置される

傷病者として診察を受けるベスコボ助教

赤エリアで横たわる傷病者を診察する DMAT 隊員ら


患者診察など SCU の必要空間を説明する佐々木准教授

文責：マス・エリック、ベスコボ・ルベン（災害ジオインフォマティクス研究分野）
佐々木宏之（災害医療国際協力学分野）